

国民健康保険事業について

平成30年度制度改正への課題と対応は

釘丸久子議員 日本の皆保険制度の根



幹をなす国民健康保険制度は、自営業者や農業従事者、

退職後の高齢者・年金者などを加入者として市町村が運営してきましたが、加入者の状況や、国の負担割合が減少する中で厳しい運営を強いられています。

法改正により平成30年度から運営主体を都道府県が担うことになり、どのように移行していくのか、今までの赤字解消をどうするのか、保険料の算定はどうするのかなど、議論が続けられてきました。

これまで、市民と行政の間で改善し、維持してきた減免制度や保健事業がどのようなものか伺います。

市長 持続可能な医療制度を構築するための国民健康保険法等の一部を改正する法律の成立により、平成30年度から国保財政の運営主体は、都道府県が担うことになりました。

現在、神奈川県が地域の実情に応じた国民健康保険運営方針を策定するため、県下市町村と協議を行っております。

本市におきましても、被保険者への影響が生じないよう十分な調整を行っております。

介護保険事業について

平成30年度の制度改正に向けての対応は

釘丸議員 介護保険制度が2000年4月に発足してすでに16年がたちました。

厚生労働省は、これまで3年ごとの見直しを行ってきましたが、2018年（平成30年）の見直しに向け検討が進められています。8月19日の社会保障審議会介護保険部会で、制度発足以来1割負担となっている介護保険の利用料について、2倍の2割に引き上げるなど負担増に関する論点を示しました。急激な高齢化に相まって、増え続ける介護給付費の伸びを抑制するのが狙いです。

これに対して、利用者団体などから「負担はすでに限界だ」「必要なサービスが使えず重度化が進む」との批判が相次いでいます。

私は昨年12月議会でも、この問題を取り上げ、すでに8月から行われていた補足給付の問題や、新総合事業の問題点について指摘してきたところでした。

この間の介護保険をめぐる国の方向性が、利用者、家族にとってどのような影響を及ぼすのか考えていきたいと思っています。

市長 介護保険事業は、3年を1期として計画を策定し、事業運営を行っており、来年度には平成30年度から32年度までの次期介護保険事業計画の策定を予定しております。

現在、国において、次期計画に反映させることとなる制度改正の内容について検討されておりますので、その動向を注視し、本市として適切な次期介護保険事業計画策定に向け取り組んでまいります。

「介護予防・日常生活支援総合事業」

への課題と対応は

市長 介護予防・生活支援サービス事業につきましては、訪問型、通所型ともに、介護保険事業者が介護予防・生活支援サービス事業者として要支援者等へのサービス提供を行っているところでございます。

今後は、住民主体のサービスを中心に介護予防の選択肢を広げる必要があり、具体的なサービス基準を設定するとともに、担い手の確保や人材育成に取り組んでまいります。

敬老祝品・祝金等給付事業の課題は

釘丸議員 次に敬老事業、特に敬老祝品・祝金事業についてです。

これは現在パブリックコメントを行っており、その影響や市民の声、今後の事業の内容などについて伺います。

市長 敬老祝品及び祝金は、多年にわたり社会の発展に寄与された高齢者へ長寿のお祝いとして贈呈させていただいているものでございます。

その趣旨を尊重しながらも、団塊の世代の方々が75歳以上となる平成37年を見据え、高齢者が住み慣れた

地域で安心して生活を送ることができるような事業へ、見直しを図る時期であると認識しております。

中学校の部活動について

釘丸議員 運動部の部活動が過熱しています。朝練、放課後の練習、土日の練習、また遠征試合と、教師の多忙化と成長期の子どもの健康に対する心配の声が出ています。

教育長 部活動は、学習指導要領において、生徒の自主的、自発的な参加により、学校教育の一環として教育課程との関連を図りつつ行われるものとされております。

現状といたしましては、目標に向けて根気強く取り組むことや、仲間との一体感・達成感を味わう経験は、生徒の人間形成の一助となっていると認識しております。

今後につきましても、多様な体験ができる部活動を通して、生徒の自己肯定感の向上や好ましい人間関係を築く力の育成がより一層図られるよう、各学校の運営を支援してまいります。

話題あれこれ

ペットボトルのお茶の名前ー

じっ茶ばっ茶

毎日、お茶をいれて持ち歩いている。煎茶、焙じ茶、麦茶、玄米茶など、目替わり。一日1本じゃあ足りない、買うこともある。

いろんな種類でいろんな名前があると感心しているが、先日、岩手でもらったお茶が面白い名前だった。

「いわて岩泉 龍泉洞の

じっ茶 ばっ茶」。

お茶の葉ではなく、黒豆、大麦、玄米、青豆、大豆、ひえ、あわ、きび。名称は商品開発の一環だもの、大事な要素です。

岩泉町は、台風10号の被害が大きくて大変です。現地のお茶を購入することも、支援になります。

